

# 友誼の聲

THE VOICE OF FRIENDSHIP

2012年8月  
第88号  
日本語版

イエズス会中国センター  
Tokyo Jesuit China Center  
東京都台東区下谷 1-5-9 「上野教会方」  
Tel : 03-3842-4407 Fax : 03-3842-4408  
E-mail : jccstaff@gol.com  
http://www.sjchina-japan.org

## いつも心に留めて下さっている方々へ

中国センターをいつも心に留めて下さっている方々へ

隣の国・中国から仕事・勉強等の理由でこの島国・日本に来、この地で改めて信仰の大切さを実感しながら、日曜日ごとにこのセンターに集まって来る人々。この人々は親元を離れて異郷の地で一人で頑張っている（寂しさもある）人々の大半ですし、自国の宗教的事情との違いから苦しんでいる人たちも沢山いらっしゃいます。このような方々の集合体である中国センターを、日ごろから心に留め、援助・協力を惜しまない皆様に、心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。

間もなく訪れる「聖母被昇天」の祝日にあたって、神の母・聖マリアさまの祝福とお恵みを願いつつ、最近の中国センターの動き・事情を皆様にお知らせしたいと思います。

今回は特に、7月22日（日）に行いました一年一度の遠足（遠出）についてお知らせいたしましょう。

初めに申しておきますが、遠足（遠出）のような活動・行事はこの中国センターにとってかなり重要なものと認識しております。中国センターは、その本質上異郷で暮らす方々がほとんどです。そのような方々が時々皆で一緒になって何かを楽しむのは、各人に安らぎ、慰め、生活上の落ち着きを与えるのに大いに役立つものだと思います。と同時に中国センターに来る人々はカトリックの信仰に生きている人たちですから、お互い助け合い、愛しあうという福音的实践を経て、各人の信仰を更に立派にし、強固にするのに大いに役立つことだろうと思います。これが又センターの結束を固めるもととなり、その意味からも、信仰豊かな中国センターを目指して現在活動している姿だと思っています。

そのような考えのもとに、中国センターでは毎年7月、あるいは9月頃に、一日をかけて近くの行楽地（近くに教会、修道院のある場所）にバスで出かけます。例えば、横浜の八景島・シーパラダイス、大磯ロングビーチ、桐生教会、などなど、過去すばらしいところに出かけました。今年は、以前行ったことがあるのですが、千葉県昭和の森公園に行きました。そのすぐ近くには聖マリア修道会の聖堂がありますので、そこでミサを挙げさせていただくという考えで、予定を立てました。

皆様ご存知のように、関東地方は7月に入りますと梅雨時の天候が少し怪しくなり、強い雨・風・雷に悩まされ、竜巻もどきの暴風が吹いたりいたしました。そんな中、予定日の22日（日）はどうなるだろうかと心配していましたが、当日の2～3日前から梅雨の気配もだんだん弱まって来、22日は天候に恵まれるという予報も出てきました。前日前夜は小雨模様でしたが、当日の朝は確かに雨もやみ、快調な出発が出来ました。上野教会を8時に出発。現地昭和の森公園に着いたのが10時過ぎ。それからバーベキュー。中国センターに来ている人たちは、バーベキュー形式の昼食が大好きです。自分たちで作って、お互いに奉仕しあって、楽しみながら食べる形式だからでしょうか。勿論中華料理の専門家が数人いて、彼らが上野教会で前日から準備してくれた材料を使って、物凄くおいしい料理を作り、食べることが出来るという理由もあるでしょう。どこに行っても行った先のレストランで食べるとか弁当を買って来て食べるとかはしません。やはり自分たちで苦労しながら作って食べるのが大好きなのです。さて今回の現地でのバーベキューですが、4箇所の大きなコンロを借り切って、盛大にやりました。準備した材料ほとんど食べ尽くした、と言いたいところですが、準備した量も多

かったので、かなり余りましたね。その最中、皆大喜び、満腹、満足。子供たち(10人以上)も大はしゃぎ。感謝、感謝でした。

バーベキュー大会が終わったのがおおよそ午後1時過ぎでしたか。その後はその公園内 各所にある遊技場を、各人の興味に従って楽しみました。ある人たちは自転車を借りて、



見学よろしく走り回っていましたね。ローラースケート場もあったようですが、誰も行力なかつたのでは？ 昭和の森公園での楽しみは3時半頃まででした。その後公園近くにある聖マリア修道院に行き、その聖堂で感謝のミサを捧げさせていただきました。行楽と霊的儀式・ミサ。一緒に出来るなんてすばらしいですね。その感動、喜びは大きかったです。そのせいでしょうか、ミサへの霊的浸透、溶け込みの状態は最高でしたね。祈り、聖歌、一糸乱れず、心からの賛美・讃歌となりました。上野教会でも毎週のミサで感ずることなのですが、センターの信徒の方々の祈り、聖歌は実に大きな声でなされますね。日本の教会の声色と大違いです。大声で、精一杯、祈り、歌っている。その際自然と皆の声が一つになる感じですが、まさにミサの意向に

合わせて、ミサの中に溶け込んで、心から祈っている感じがすね。共同で『祈りをする』と言うのは、まさにこのような在り方、状態を言うのではないのでしょうか。

その日の予定を順調にこなし帰路についたのは6時ごろでした。京葉道路を経て湾岸幕張PAで一時休憩、お台場周辺を経て上野教会に着いたのは夜7時を過ぎていました。それかも有志の者が残って後片付けをするのですが、これが又感動の光景でしたね。確かに自分たちの行事だからと言えばそれまでですが、参加者の半分以上の者が残って、最後の最後まで徹底的に片付けるのですから、感動でした。しかも、すごく早く終わりました。全て終わり、帰る直前、一人の女性信者さんから言われた言葉には感動いたしました。『昨日まで雨が降っていて、今日も朝方少し降っていましたが、バスで出かける頃からそれも止み、現地についてバーベキューを始める頃は日もさし始めました。神様は私たちの遠足を守り、今日の日を心から祝福してくださったのですね。本当に感謝です。』まさに私の思いと同じでしたね。

以上は今年の中国センターの遠足の様子ですが、このお知らせの内容からもお分かりいただけると思いますが、現在の中国センターは大体良好に進んでいると思います。教会としての信徒の状況は、日本における教会としては全く珍しく、若者中心で、70～80%は20代30代だと推測いたします。日本の教会の高齢化現象を傍目に、この中国センターは圧倒的に若者が多い。それから、5～6年前と比べても確かに人数は多くなっています。これからも多くなって行くでしょう。このような状況、信徒構成のなかにあつて、毎年行おうとしている一日の遠足は、娯楽、安らぎの機会であると同時に、相互の助け合い、協力を身につけさせる良い機会になっているように思います。若い成年信徒が多いだけに、このような機会を時々持つことによって、人々への係わり方、社会人としての大人化、信徒としての生き方、福音的生活の成長を身につける良い機会となっていると思います。このような機会が毎年行われ順調に続いていけば、一人ひとりの福音的成長と共に、人間的成長にも大いに役立つものになると思います。更に、中国センターとしても、将来素晴らしい教会となっていくこと受け合いだと思います。神に感謝！！！！

中国センター代表者 井上 潔



# シャボン玉

突然、目の前に多くの“でかい”シャボン玉が、やわらかい風に静かに流されていました。子供たちも私も、呆気にとられていました。薄い虹色を帯びているメロンほど大きいシャボン玉。日帰りバス旅行で千葉市昭和の森公園に来ていた中国センターの信者と一緒に、自転車の散策コースを走っていたときでした。芝生で男の人が両手に二本の細い棒を持ち、両端が2メートルほどのやわらかいビニールでできた鎖で繋がっていました。鎖を石鹸水に浸してから、細い棒でその鎖を張りながら上へあげ、風が当たるように振っていると、鎖の個々の輪から大きなシャボン玉が生じて流れるようになりました。見事でした。その男の人は寄付を集めていませんでした。自分と周りの人々を喜ばせるためだけに、シャボン玉をつくらせていたのです。帰り道、聖マリア会の修道院に立寄って、日曜日のミサを祝いました。「主はわれらの牧者」がテーマでした。

今年のバスには、子供を持っている若い家族もいたのが特徴だったと思います。変化しているセンターの構成が反映していると思います。5月の母の日には、ミサ後、母親たちに祭壇の前へ進んできてもらい、一人一人に特別の祝福と1本のカーネーションをあげました。40人ほどでした。6月の父の日も同様。センターの一昔前は、単身で仕事や留学に来日していた人が多かった。しかし、現在は子供も多くなっています。一昔前、日本で子供が生まれた場合、1、2歳になると中国の家族のところへ預けるのが普通でしたが、最近では自分の元で育て、日本の幼稚園や小学校へ通わせる家庭が増えています。数年前から中国政府の一人っ子政策が少し緩和された事も影響あるのでしょうか。

吉祥寺教会の助任司祭である、若い楊神父様が、継続して毎月の第3日曜日にゆるしの秘跡、ミサ、説教をするなど司牧のために来てくださることで、センターの信者が中国人の

神父様と出会う機会が増えています。

8月には再度、甘国棟神父様がセンターを訪れて、自分の得意の祈りや霊的生活について指導をしてくださいました。8月12日、19日の両日曜日、および聖マリアの被昇天祭(15日)に、センターでプログラムを指導してくださいました。

なお、横浜の信者を訪問する予定の中国人神父(潘世勝師)が、8月26日と9月2日の両主日に、センターのごミサを担当していただく事になっています。

林恒師からの便りによると、パチカン放送局の任務が終わり、中国のマカオに移り、イエズス会管区長の元で宣教や司牧に専念する事になりました。10年ほど前から、毎年当センターへ来てもらい、独特のプログラムや個人指導を行ってくださいました。林恒師も信者に慕われています。

今年の4月に、私は、11年前に引き受けたセンターの責任のバトンを井上潔師に渡しました。その11年間を振り返ると、感謝したい事が多いです。収穫の主イエスと、センターの保護者であるリジューの聖テレジアに感謝すると同時に、上野教会の深水師、岩橋師、西川師の歴代の主任司祭と信徒の友情および親切な受け入れを忘れる事ができません。

また、東京大司教区、イエズス会の日本管区の支援、当センターで協力しているスタッフ、学校教諭のキャリアを終えて、中国人を司牧するために10年間、中国語が上達する努力を続けている井上潔師にも脱帽です。

上野教会および中国センターの合併共同体はとても面白い特徴があって、次の聖書の言葉が当てはまると思っています。「…務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。

働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。



一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。」(1コリント12:5-7)

現在の上海教会には、言葉が違い、文化が違い、年齢が違い、そして一人一人の違いを取ってみれば、例えば、中国語ができない私の説教を上手に中国語に通訳できる朱春瑟さんがいます。私の足りないところがあるから、私の説教が二重となります。弱さが豊かさを生むようになります。パーティーがある場合、プロ級の中華料理士もいます。思い出して書き出せば、一人一人のユニークな才能や性格が全体のために提供されています。

同じ集団の中で聖霊による愛がなければ、各々のユニークな才能や性格が、かえって嫉妬と争い、批判と悪口の元になりますが、上海教会では愛と心の一致があるからこそ、一致があり、心地いいわけです。努力してこの恵みを大切にしたいものです。

ロバート・ディーターズ

## 上海の教会はどうなっているのか

『友誼の声』の読者の中には、上海の余山(シェンヤン)に行ったことのある人も多いでしょう。中国の有名な聖母巡礼地で、美しい大聖堂があります。教皇ベネディクト16世は、毎年5月24日を「中国のために祈る日」と定め、余山の聖母への祈りを発表されました。日本でも東京・麹町(聖イグナチオ)教会のザビエル会の皆様が、毎年、祈る集いを催してくださっています。

この余山で今、叙階されたばかりの司教様が軟禁状態にあると伝えられています。

### 勇気ある行動

この若い司教様の名前は馬達欽(マー・ターチン)司教。今年7月7日に叙階されたばかりです。5月30日、日本にも友人が多い金魯賢(チン・ルーシェン)司教様が主宰した選挙で、「協働司教」に選ばれました。選挙には司祭、修道女、信徒合わせて190人が参加し、賛成160票を得て選ばれました。

叙階式は7月7日に、徐家匯の聖イグナチオ司教座聖堂で行われました。この叙階式に世界の注目が集まったのです。新司教の馬司教様は、中国天主教愛国会の常務委員で、上海市愛国会の副主任でした。愛国会は教会内の官製組織で、本来は司教に任されているはずの教会統治の役割も一部持っているため、パチカンは強く非難しています。

でも馬司教様は、パチカンも承認していたのです。叙階後のあいさつで馬司教様は、「慈しみ深い教会は、私が司教になった後、宣教司牧の仕事に専念するようにと導いています。よって叙階の日から、私はもう愛国会のいかなる職務も担いません」と言ったのです。当日は政府の宗教局の役人も多数来ていました。その面前で、愛国会に決別宣言をしたのです。

さらに叙階式には、上海教区の86人の教区司祭のうち、10数人しか参加しませんでした。他の司祭たちは、叙階式に教皇様の認めない司教が来るのを嫌い、参列しなかったといっています。しかし式では、この教皇様が認めない司教様は、新司教に按手をしませんでした。

もうひとつ。馬司教様は、「補佐司教」としての叙階を受け入れるとも宣言したのです。

### 複雑な上海の司教

馬司教様は、選挙で「協働司教」として選ばれていました。しかしパチカンは「補佐司教」に任命していたのです。

協働司教とは継承権のある司教です。例えば教区司教が亡くなるか引退した場合、直ちに教区司教の座を引き継ぎます。補佐司教には継承権がありません。

じつは上海教区では、金司教様が協働司教なのです。教区長である教区司教は地下教会の范忠良(ファン・チョンリヤン)

司教様です。1つの教区に継承権のある協働司教が2人いるわけにはいきませんから、パチカンは馬司教様を補佐司教として任命していたのです。

ところが当局側は地下教会の范司教様をまったく認めていませんので、政府公認の教会では金司教様が教区司教のような存在になっているのです。そこで当局は馬司教様を協働司教だと見なしていますが、馬司教様ははっきりと「補佐司教だ」と身分を明らかにしたのです。

さらに上海にはもう1人、若い補佐司教の邢文之(シン・ウェンチ)司教様がいらっしゃいますが、昨年末から行方不明です。実直な性格で、当局と衝突していたようです。当局は邢司教様が上海の教区司教になるのを嫌っていたといえます。報道では、故郷に帰ってしまったらしいとのことですが、よく分かりません。

そこで当局は、愛国会関係者だった馬司教様に期待をかけたと思われるが、馬司教様は「造反」したのです。

私の友人の話では、上海の司教館には、まだ邢司教様の部屋が残されており、馬司教様は近くの教会に住む予定だったといっています。しかし今は、余山で軟禁状態にあるとのことでした。

### 教皇様に忠実

馬司教様は叙階式で、①今後、愛国会とは関わらないと宣言した②補佐司教としての身分を明らかにした—という行動に出ました。

じつはこれ、教皇ベネディクト16世が2007年に発表した、中国の教会に宛てた書簡の中で訴えていたことに、忠実に従ったと言えます。

ベネディクト16世は、書簡の中で以下のように呼びかけていました。

「... 国家によって設立された教会の体制とは無関係のものが、司教たちよりも上に立ち、教会共同体の生活を導こうとすることは、教会の教えに合致しないことは明確です。... それぞれの部分教会にあつては、『教区司教が(そして彼のみが) 主の名において託された羊の群れを導くのであり、本来の、正しい、直接の牧者としての身分で務める』のです」(同書簡7)

「... ある司教たちは特殊環境の圧力の下で、教皇の任命がないまま叙階されることに同意しました。ただし事後、ペトロの後継者と司教職にある他の兄弟たちとの交わりに迎えられるたいと願いました。教皇は彼らの誠意と環境の複雑さをかんがみ、近隣の司教たちに意見を聞いた後、普遍牧者としての責任をもって、彼らに合法的かつすべての司教職を行使できるように認めました。... 残念なことにほとんどの場合、

司祭や信徒たちは自分の司教が合法であることを十分に告げられなかったために、少なからぬ重大な良心の問題が生み出されました。またさらに合法的司教の中には、合法である事実を証明する明確な表現を何もしてこなかった人がいます。関係する教区共同体のためにも、合法的身分である事実を短期間の内に公開し、合法的身分の聖職者がさらにはっきりした行動をとり、ペトロの後継者との完全な交わりを持っていることをあきらかにすべきです」(同書簡8)

中国では2010年11月から、教皇様の認めない司教叙階式が4回ありました。うち3人には、はっきり破門が宣告されました。そして馬司教様のように、教皇様に忠実であろうとすれば、さまざまな制限を受けることとなります。

『友誼の声』の読者の皆様には、引き続きお祈りをお願いする次第です。

※この文章は、UCAN (www.ucanews.com) の報道を参考にしました。

松隈 康史

## お知らせ

### (1) 甘国棟師の来日について

霊性や黙想の指導者である甘国棟師は、8月9～20日に再度東京に滞在し、8月12日、15日(聖母の被昇天祭)、19日にセンターで赦しの秘跡、ミサ、説教および祈りと霊性のプログラムを行います。参加は自由ですが、プログラムは午前10時から始まります。出席の申込みについては、センターへ連絡してください。

### (2) 潘世勝神父の来日について

横浜の中国人信徒を訪問する潘世勝神父が8月26日および9月2日の両主日にセンターでミサを司式される予定です。師は現在欧州で留学しております。

### (3) 8月の日曜日のミサ

センターの日曜日のミサは通常、午後1時30分からです。8月15日(被昇天祭)のミサ時間も午後1時30分です。